

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 石橋舞子

授業科目名	グローバル人材育成(雲南)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>本研修では、中国の雲南省における農業や歴史、民族文化などについて学んだ。雲南省の都市昆明は、中国の最西南部に位置しており、山や湖といった自然や多く少数民族がいる歴史的にも古い地域である。そこで、広大な面積の植物園を訪れたり、花市場やお茶市場などを訪問した。他にも、私たちは大理を訪れた。ここでは、歴史ある建築物や湖のほとりなどを訪れた。また、博物館で大理石や民族衣装などを見たり、「白族」とよばれる民族の伝統的な踊りを実際に見るなどした。本研修で学んだことは、私の専攻している文化人類学での民族分野の研究に役立つものであり、今後の研究で深めていきたい。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>本研修を通して、中国と日本の学生同士の交流や中国の歴史や文化など様々なことから学びを得ることができた。特に、学生同士の交流では日本と中国との文化の違いを理解して受け入れることができるようになった。これは、表面的なものではなく、その文化がある意味をお互いが深く理解しようとする姿勢が示されるものであった。大人数で囲む円卓の食事や夜遅くまで光るネオンの街並み、交通量の多い道路、南国ならではのトロピカルフルーツが並ぶ果物屋など、どれも現地での生活で見た雲南の街並みである。今回は、短期研修であったため、現地の人々の生活などはあまり分からなかったため、今後機会があればもう一度訪れたい。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修では、学生同士の交流は基本的に英語で行われたため、中国語を話す機会があまりなかった。しかし、お店での注文で現地の方と話すときは英語が通じないことも多かった。そのため、以前から勉強していた中国語を使って、はじめて注文ができたときは非常に嬉しかった。それまでは、中国語を話すことに自信がなく話すことに抵抗感があったのだが、それをきっかけにとりあえず話してみることができるようになり、会話を楽しめるようになっていった。中国語の知識は、まだ十分ではないので日本に帰国後も続けて勉強に励みたい。また今回で中国人の友達が沢山できたので、中国語でメールのやり取りを行なっていこうと思う。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私は、文化人類学を専攻しており、研修以前より日本および世界諸地域の民族について非常に興味を持っている。今回の研修では、民族文化は時代の変革に伴って、少しずつ形を変えて残り続けているということを知った。それは日本においても同様の動きであると思う。そのため、現代における民族文化のあり方についての知識を増やしていくとともに、今後継承問題にも関わっていくことが自分自身の今後の目標である。民族文化は、その地域を特徴づけるものであり、歴史と文化、生活様式など様々な研究要素を含んでいる。これらを継承していくことの重要性は非常に高いと思われる。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・2年

氏名: 寺谷実花

授業科目名	グローバル人材育成(雲南)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>本研修では雲南にある食品工場や植物園を視察し、中国における農業や食に関する現状を理解することができた。また、雲南農業大学の学生との交流を通し中国の人々の暮らしや文化について学ぶことができた。大理では長きにわたってお茶を中心に繁栄してきた茶馬古道について学び、中国ひいてはアジアに世界におけるお茶の位置付けを知ることができた。そして、日本に研修に来ていた学生の学内発表に参加し、研修を通して学んだことや鹿児島の食文化について発表を行った。最終日は、日本と中国のお茶文化を比較し、日本人の価値観や美意識を自分なりに考察し発表した。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地の生活の中で最も驚いたのが中国の食文化である。香辛料や油を多く使った食事が多く、毎食驚きがあった。同じ食材でも全く違う調理方法をしていることに衝撃を受けた。そして、動物を内蔵から骨、頭まで丸ごと調理した料理が多くとても驚いた。また、中国の食文化ではもてなす側にとって足りないことが恥ずかしいことという価値観があり、毎食たくさんの料理が大皿で運ばれてきた。食べ残しに対する意識も日本とは異なるため、中国人の観光客の日本の観光地での行動が少しだけ理解することができた。中国と日本の文化は似ている部分が非常に多いが、違う部分はとことん異なり非常に興味深かった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地の学生との交流を通して、中国に対しての漠然と自分が抱いていたイメージが変化したことが研修を通しての一番の成長だと考える。日常的に目にする中国に関する情報はあまり良いものが少なく、漠然と良いイメージを持っていなかった。また、鹿児島大学に訪れた雲南農業大学の学生とも十分に交流できず、理解を深めることはできなかった。しかし、研修で実際に中国に滞在し、自分自身も中国文化を実践してみることによって、今までは理解できなかった中国の学生の行動や言動の意図が理解できるようになった。自分と異なる文化を理解するためには実際に現地へ行かなくては深まらないのだなと実感した。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>本研修を通して、異文化交流における相互交流の重要性を身をもって理解することができた。どちらか一方が交流を積極的に行うのではなく、お互いに異文化を受け入れ合う姿勢を持つことが大切だと考えた。また、異文化に興味を持ってもらうきっかけとして、この短期留学経験を学部や大学、またはさまざまな教育機関で発表したいと考える。今まで海外に意識を向けたことがない人たちに対して、将来的な海外意識の重要性を伝えることにより、異文化を拒絶するのではなく受け入れていこうと行動できる人を増やすことできるのではないかと考える。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・2年

氏名: 西村 拓真

授業科目名	グローバル人材育成(雲南)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>雲南省の昆明と大理にて、3月6日～15日の期間研修が実施された。現地では、雲南農業大学のキャンパスツアー、お茶づくり体験、雲南白薬、花卉オークション取引センター、flowerマーケット、昆明植物園、民族村、神衣集団、自然博物館、アルハイ、お茶マーケットなどを訪れた。</p> <p>雲南省は、低緯度で内陸部に位置しているが、標高が高い地域から低い地域まで幅広く存在する。この自然的要因が、雲南省の特徴である少数民族のそれぞれの文化形成や中国の農業・畜産分野、そして、花卉の生産に大きな影響を及ぼしている。特に、民族については、勉学と男女の関係、見た目の好み、建物の構造など日本と大きな違いがあることを学んだ。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修では、中国のお金の使い方や文化、歴史など様々なことを学んだ。その中の一つ、中国人に対するイメージの変化について述べる。私を含め多くの方は、日中関係やメディアの影響などから中国人に対してマイナスのイメージを持っているのではないだろうか。しかし、今回交流をした方だけではあるが、外部からの客に対してもなす熱意が日本よりも格段に高く、素晴らしい人柄の人であふれていた。また、電線の埋没化など日本が取り入れるべきことも多く実施されていた。これら以外にも様々な良い点を見つけることができ、中国に対するマイナスイメージが大きく変化した。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修を通して、自主性・計画性が身についた。研修前は、疑問に思うことがあっても質問することができず、また、周りの人に合わせて行動してばかりいた。さらに、興味を持たないことに対してはあまり身が入っていなかった。しかし、初めての海外(研修)ということもあり、「日本との違いは何かに気づく」というごく当たり前のことかもしれないが、目標を決めて本研修に臨んだことで様々な気づきを得ることができた。また、今まで興味を持ったことがない内容であっても、その場で調べて理解に努め、疑問点はないのか常に考えられるようになった。もし、疑問点があれば、先生やガイドの方、現地の大学生に積極的に質問してその場で解決する姿勢が身についた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は、自身の周囲にいる日本人の持つ中国人に対する偏見を払拭し、中国と地域の交流を少しでも活発化させていきたいと考えている。おそらく、日本人は、日中関係問題などからメディアを通して中国の悪い側面だけが先行してしまっている状態であると考えられる。しかし、日本が経済成長をするには、私たちの中にある悪いイメージを払拭し、中国との交流を深めることが必要不可欠だろう。そのためには、実際に現地に行った私たちが感じた中国の姿を伝えることが最善であると考えられる。また、今回交流した雲南農業大学の学生と交流を続け、さらに、中国との交流に難色を示している日本人に中国の良さを伝えていくことで、地域社会と中国の交流が生まれ、経済もより良い方向に進んでいくのではないかと考えられる。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・2年

氏名: 早川花穂

授業科目名	グローバル人材育成(雲南)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>お茶の文化について学んだ。日本文化とは異なる点が多いことが印象的であった。お茶の種類によって最適の温度や蒸らす時間が違うことや、使う器具も変えていることを学んだ。また、「三道茶」という味の違う三杯のお茶を飲む文化について学び、実際に体験することもできた。</p> <p>花卉卸売市場の訪問では、競りに出すために決まった数でまとめられ、移動用の台車に積まれた花や、仲卸業者が売買している様子を実際に見ることができた。花卉の取引場所は主に沿岸の発達した地域であることや元々は嗜好品として取引していたが、最近は家でも飾るようになり、需要の弾力性がみられるようになったことがわかった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>移動手段、トイレ、決済方法などは、日本とかなり異なっていた。移動手段はバイクが主流であり、二人乗り用に作られたものも多く、ほとんどはガソリンではなく電動のバイクであった。また、バスのような公共交通機関はあまり見られなかった。トイレでは、紙が流せないほか、紙を置いていないトイレも多かった。決済方法は、QRコード決済が主流で、現地の人で現金を使っている人は見なかった。小さなお店でもQRコード決済ができ、現金を使えないお店もあった。</p> <p>また、音声入力でメッセージを送ることが主流であったり、基本的に日本人よりも会話が多いことが印象的だった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修前よりも、積極的に意思を伝えたり、疑問点について聞くことができるようになった。研修先では、中国の学生と英語で会話をしていた。自分が思っていた以上に英語での会話は難しく、自分の意思を伝えるのに時間がかかったり、知らない単語があり、聞き取れない場面もあったが、単語の意味を調べたり、ジェスチャーや知っている単語を使って伝えようと努力した。時間がかかったり、文法が正確でなくても話してみることが大事だとわかった。</p> <p>また、研修先では、工場や博物館の見学に行く機会が多くあったため、話を聞きながらノートに記述することを心掛けた。書き記すことで後から見返し、理解を深めることができた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修中に、街中で輪になって踊っている人や歌を歌っている人を多く見かけた。日本も同じように、気軽に集まって交流できる機会や場所が必要であると思った。地域ボランティアやコミュニティの参加を通して人間関係を築くことが地域社会の発展には必要であると考えた。</p> <p>自分が取り組めることは、地域のボランティア活動や清掃活動に参加することで、地域に関心を持ち、課題を見つけ、解決策を考えることや、地域の特産物やイベントについてSNSなどを使って発信して、より多くの人に知ってもらいたいと考えた。</p> <p>また、日本には海外からの観光客や移住者が多いため、英語や中国語などで説明や案内をできるようになりたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 医学部・2年

氏名: 牟田あかね

授業科目名	グローバル人材育成(雲南)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修を通して現地の学生や先生方と交流をすることで現地の学生が普段どのような大学生活を送り、どんな考えを持っているのかを知ることができた。雲南省では26の民族が暮らしていて、住居・衣服・言語・風習の互いについて知ることができた。少数民族はお互いに影響を与え合っていることも興味深かった。研修中に体調を崩すことがあったが、海外での体調管理の重要性に気づき、良い経験となった。雲南省は気候が乾燥し温暖で過ごしやすく、有名な化石や花市場、稲作の発祥の地であること、お茶の栽培に長い歴史があることなど、人類の歴史の中で重要な位置づけとなるものの産地であり、多様な歴史や文化に触れることができた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地では輸入品の値段は高かったが、フルーツや野菜がとても安く販売されていた。マンゴーやスイカ、メロン、マンゴスチン、いちごなどをよく食べた。道路は右側通行であり、多くの人が電動のバイクに乗っていた。車も走っていたが日本ほど多くはなかった。食事は多くがビュッフェ形式か回転テーブルから自分で食べる量取っていくスタイルで、日本とは異なっていた。三度茶を体験し、苦い味、甘い味、不思議な味と人生を表したお茶にとっても感動した。雲南省の遺伝子移植の実験施設を見学した。豚の器官を人に移植するために免疫応答をゲノム編集によって抑えることや組織の拒否反応に対処する方法を最先端の技術を用いて研究していた。倫理面での課題は存在するが、とても画期的な研究施設を訪問できたのは貴重な経験となった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修前は中国に対して政治的なイメージで良くない印象を持っていたために、中国に住む一般人にまでマイナスなイメージを持っていた。しかし、私がこの研修で出会った人は私たちを歓迎し、雲南の文化について丁寧に教えて下さった。大理でガイドをしてくださった中国人の方は、留学経験なしで流ちょうな日本語を使いこなしている上に中国はもちろん日本の歴史・文化まで精通していた。その方が、国について知るには、表向きを見るのではなく、庶民の生活を体験するのが一番おもしろく、良い方法であるとおっしゃっていた。また、私たち庶民は政治には関係なく同じ人間なんだから仲良くしていけばよいという言葉が印象に残った。持っている偏見を捨て、目の前の人とまっすぐ向き合うことが「知る」ことのはじまりなのだということに気が付いた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>学生のうちに日本だけではなく違う文化的背景を持つ人と交流することは非常に重要である。新しい、自分にとって異なるものと触れたとき、人は拒絶や受け入れがたく思うことがふつうである。しかし、異なるものと認識した上でそれを理解しようと努力することは拒絶する人と比べると大きな学びを得られると思う。将来社会に出て、違う世代の人、違う価値観を持つ人、外国人の人などいろんな人と関わることになるだろう。その時、相手を理解し、信頼関係を築いていけるように今後も自分と他者について知り、周囲に潜む問題や発見をしていきたい。</p>	